



(上)本番に向け稽古に熱が入る
(下)14本の火柱が冬の夜空を焦がす

見る側も見られる側も楽しい気分させる左義長ばやし

「勝山左義長まつり」

(勝山市)

毎年2月の最終土曜、日曜に開催される「勝山左義長まつり」。300年以上の歴史があるとされ、県の無形民俗文化財に指定されている伝統行事です。見物客に人気があるのが、周辺の12区が櫓を建て披露する「左義長ばやし」。はやし歌や三味線、笛に合わせ、おどけた調子でたたく太鼓の音が夜まで響きます。

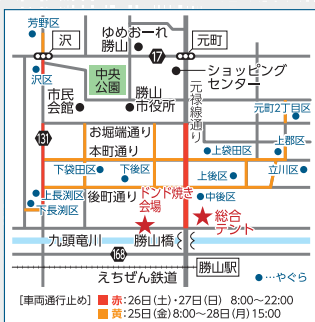
市民向けにはよしの講習会を開催しているのが「勝山左義長ばやし保存会」です。会長の木村照雄さんは「主に12区内に住む希望者を対象に、太鼓などの稽古をしています。全員が櫓で演奏するとあって、みんな真剣です」と、練習の様子を紹介してくれました。

このほか祭りでは、鍋やお盆といった生活用品を使って干支などを表現する「作りもの」や、社会を風刺した川柳に水彩画を添えるユーモアたっぷりの「絵あんどん」の展示、

九頭竜川の河川敷で14の御神体に火を付けフィナーレを飾る「ドンド焼き」など、内容が盛りだくさん。昨年は11万人の見物客が訪れました。

後継者の育成が課題という木村会長。「子ども向けのおはやしコンクールの開催のほか、左義長ばやしの映像をおさめたDVDや教則本の制作など、担い手の確保を目指し工夫しています。今後はPR活動にさらに力を入れ、特に若者や12区以外の人たちに興味を持ってもらえるよう頑張っていきたいです」と、意気込みを語ってくれました。

奥越に春を呼ぶ季節行事としても知られる勝山左義長まつり。冬の締めくくりに、ぜひ足を運んでみてください。



「勝山左義長まつり」

2/26(土)、27(日)

会場: 勝山市中心部

☎ 勝山左義長まつり実行委員会(勝山市観光政策課内)

☎ 0779-88-8117

※できる限り、公共交通機関をご利用ください。当日は、えちぜん鉄道勝山駅と会場を結ぶ無料シャトルバスが運行されます。